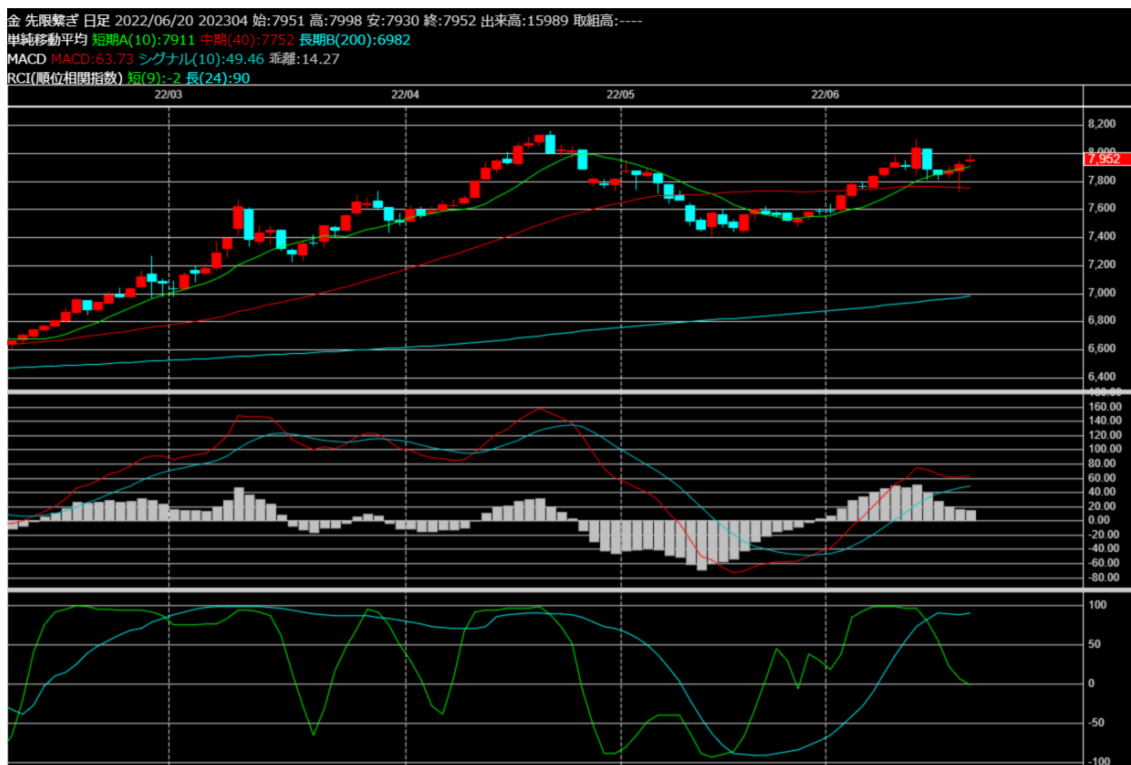


## ＜金標準先物、不確実性の高い市場への逃避の見直しから 8160 円へ・・・＞



(出所：オアシス)

先週のFOMCで1994年以来の0.75%の最大の利上げを実施したFRBに対して、日銀金融政策決定会合では、政策金利は据え置きを発表し、黒田日銀総裁の記者会見でも「仮にさらに必要があれば、躊躇なく金融のさらなる緩和をする用意がある」と言及し、政策再点検（イールドカーブコントロール）も「現時点で必要とは考えてない」と説明している。そのためスイス中銀が15年ぶりの0.5%の利上げを実施し、一時的に131円まで円高に動いた為替は、135.46円まで円安：ドル高の反転を見せている。金標準先物は、一時円高を受け7729円まで反落する動きを示したが、週末には7998円まで上昇を行っており、日米の金融政策の違いが鮮明となり、為替市場では140円の声も聞かれるなど、円建ての金標準先物価格は、4月の高値8160円に向けた上昇が期待される。

特にCPIやPPIの上昇を抑え込む事が出来ていない状況下で、スタグフレーション懸念の高まりもあり、株価の大幅下落と合わせた逃避の見直しから金価格は支えられる動きが予想され、円安も重なり4月の高値8160円を目標に上昇の可能性が高いと予想される。

### ＜テクニカル＞

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが下げ渋りながら、シグナルは上昇するなど、強気の継続を示している。またRCIでも短期が下げているが、長期は90%を維持するなど継続を示す動きを見せている。特に日足が10日移動平均線の上昇に沿って切り上げており、直近の高値8106円を試す値動きが予想される。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,230,000 円(2022 年 6 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 6 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>